

射水

射水神社報 平成21年6月発行

第12号



ご挨拶

射水神社宮司 松本正昭

当神社の鎮座する古城の杜は今が盛りに新緑が芽吹き、訪れる人の目を潤し、自然の恵と甦りの心を育んでくれます。

この古城の杜は、古くは関野台地と称し、日本列島本州のほぼ中央に位置し、荒れ狂う庄川の流れと小矢部川が合流し扇状地を形成し、平坦ではあるが氾濫する中に孤島を生みだし関野の台地が形成された。

この関野の台地に、戦国の世、慶長十四年、前田利長が当神社が鎮座するところに本丸を構え高岡城を築城し、千保川（庄川本流）と小矢部川の水利をいかし高岡の殖産興業を生み出し、町造りされて以来四百年の節目の年を迎えて、高岡市と市民一帯による奉祝行事が盛んに執り行われ、この古城の杜も一際賑いをみせている。

高岡城は、関野台地の自然の地形を生かした七万坪を超える広大な地割を有し、水位を異にする三つの水濠により郭を囲み堅固な平城を成し、戦国の世の外様大名としての前田利長の戦國体制の深謀を秘めた縄張り思想に基づく城構えを成している。元和元年徳川政權下の一国一城制により廃城を余儀なくされ、殿郭・楼門等とはことごとく破却されたが、幕府は加賀百万石の雄藩としての微妙な立場を考慮し、また加賀藩は幕府の手前を巧みに取り謀り、郭は無いものの城としての実質的価値を残し土塁・濠は殆ど原型を保ち幕末に伝えられた。

しかしながら、廃藩置県を断行した明治政府の政策の下に七尾県（当時、高岡は七尾県に包括されていた）も金沢藩を廃藩し、かつての金沢藩にしても高岡城跡の護持に事欠き、明治五年に民間に払い下げ決定し、落札者も決まり濠も埋め立て予定されていたのであるが、当時、町民の唯一の憩いの場であった城跡を無くすることに、区長服部嘉十郎を先頭に町民と伴に、熱烈な反対運動を展開されたのである。

折しも、明治六年一月十五日に太政官布により公園条令が交付され、明治七年七月には射水神社が二上の地より遷座することが決定されたのである。もとより射水神社は越中全土の守護神とし越中文化発祥のころから崇敬を集め、延喜式内社、県内唯一の名神大社（国司の祈願所）とし、明治四年の国家管理時代には国幣中社に列し、町民からの崇敬の念篤く、神徳を普く光被すること相俟って高岡町民並びに近郊村民とが共鳴し、また公園として保存するに、神社境内の管理方針と似た精神を以って、俗化を避け、何時までも精神の修養を行うべき聖地として目的に適うことであり、そしてまた、城跡の民間払い下げを阻止する一役を担ったのは、射水神社が国家管理神社であった事、又、国幣中社初代宮司に金沢藩老をして宮司に擁立し遷座の許可を得るまでの基盤を造ったことが要因となる。青山宮司は在職一年にして官幣大社三

島神社に転じ、後任にこれまた金沢藩老加藤里路氏が宮司として拜命されている。

嘗て、当神社役員であった郷土史家和田一郎氏が高岡市史編纂中に、明治四十四年六月に徳富蘇峰が高岡に訪れた時に、この公園の印象を「第三天然と人」という著書の「高岡公園と二上山」の中に次のように書いてのこと教わったことがある。

「予は停車場に抵る序を以て、射水神社に詣し、高岡公園を見る。公園は、慶長年間前田利長に築きたる城跡其儘也。水草浮び、其の側には灌葺横生し、而して城跡の内外、神社を除けば、何れも野草茫茫、唯だ赤松翠杉の、天を突て岬ち立つを見るのみ。而して其の小高き地点に上れば、伏木港の橋竿、煤煙を隔て、日本海の海光あり。其の四方削り成したる如き近い近山は、神保氏の旧城跡にして、大伴の家持が「烏羽玉の夜や更けぬらむ玉くしけ二上山に月傾きぬ」と詠じたる二上山也。……」

この著書によれば当時の古城の杜の姿は手を加えることなく、ただ射水神社のみ鎮座されていた様子が伺える。しかし、城跡としての縄張り残り、戦国の世に利長公は蘇峰のように本丸より二上山を拝し、日本海を展望していた姿が伺えるのである。このように高岡開町以来の歴史と伝統ある古城の杜が、親しみある市民の誇りある歴史的財産として護り伝えていかなければならない。

杜の景色

杜の景色（上半期）

1月1日 歳旦祭 初詣

1月14日 左義長
（射水の火祭）

2月節分 節分祭

2月11日 紀元祭

2月17日 祈年祭

4月18日 日吉社春祭

4月23日 春季例大祭

4月29日 植樹祭

4月30日 院内社春祭

5月13日 悪王子社春祭

6月27日 鎮火祭

6月30日 夏越大祓

人形清祓式

イメージ キャラクター

射水神社において、開町400年を記念して昨年11月よりイメージキャラクターを募集致しました。本年の5月28日の奉賛会総会で発表できることになりました。

大賞は富山市在住の方の作品で「ふうたん」であります。

頭の形が神奈備山である二上山をあらわし、右手には大伴家持の歌に詠まれる射水川の清流をイメージ、また左手には神紋の稲穂をあしらった、県内の方ならではのアイデアの作品が選ばれました。祭儀を中心とした普遍の部分。社会の中での親しみやすさの部分、双方の歯車のかみ合わせを厳格に考えつつ、愛される「ふうたん」を育ててゆく所存であります。



春季大祭

葉桜のもと本年も好天に恵まれ、清々しい初夏の訪れを感じつつ、春季大祭が賑々しく執り行われました。奉賛会長、綿貫武様をはじめ、多数のご参列を仰ぎ執り行われましたことが何よりであったかと思えます。

祭儀も恒例の如く肅々と執り行われたのですが、特筆すべきは、ここ数年若干ながらも参列の方々が増えている現実です。大神さまのご神恩の賜物だと思ふ次第であります。

蜂退治

射水神社は古城公園内に鎮座しているのですが、二上山にも境外末社を何社か管理しております。その中でも本年「悪王子社」付近で蜂が発生しており、参拝に難儀しているとの報がありました。定期的に職員が巡回し様子を確認はしているのですが、春先の蜂の巣作りは予想を超える速さで進行していたようです。

二上山は地元のハイキングコースとしても知られ、ハイキングの途中に各社お参りされる方も多数見られることから、早速職員が駆除に乗り出した次第であります。



夏越の『大祓』ご案内

一、日時

六月三十日
午後六時齋行

一、場所

射水神社境内

一、初穂料

お心持ち

人形清祓式のご案内

一、日時

六月三十日
午後六時齋行

一、人形受付

午後一時〜午後五時まで

一、初穂料金

志ですが二千円程度が目安です。



神前結婚式

御神恩をいただき、幸おおからん事を。

平成20年12月挙式の方々

小林 艶幸・めぐみ
濱田 修一・いくみ
槻尾 俊成・貢三子
中谷 信弘・知佳
村橋 禎久・薫
中田 啓勝・愛璃沙
竹内 清明・佳澄
今井 雅弘・章子

平成21年1月挙式の方々

児嶋 秀和・哉好
大江 隼介・亜希子
崎山 直彦・美里
山本 太郎・希伊子

平成21年2月挙式の方々

竹田 昇平・千穂
山下 英昭・美保
奥山 長春・範子

平成21年3月挙式の方々

岡本 亮・小百合
加藤 正・仁美

平成21年4月挙式の方々

中田 弘利・美紀
上井 裕徳・有香
坂井 誠・佳代子
瀧内 揚・有加
山下 剛・麻記子
阿部 充晴・葵
高田 修男・寿実
西島 潔・永恵
関原 光一・静子
嶋田 尚夫・琴絵
清水 勇樹・有希子
藤田 貴吉・亜沙美
畑 久人・理恵
永井 洋一・紗織
伊勢 三月・康子
金田 浩人・由美

平成21年5月挙式の方々

堀川 貴志・一美
篠原 淳・仁美
ウオランスコット・森 香織

林 俊克・祐美子
中村 秀恒・麻貴子
石倉 隆之・愛子

平成21年5月挙式の方々

矢野 隆宏・江里
アディオン・宮崎 ゆかり
小舟 貴喜・美代
谷口 央・莉衣子
蒲田 智一・加菜子
佐藤 高宏・恵美
西野 克・美里
大谷 敦志・亜津子
大原 秀夫・真琴
島 隆至・貴子
中川 一郎・明子
吉田 玲・良子
藏谷 直幸・みちよ
大浦 充・彩
高嶋 敏弘・さおり
梶 玄・恵美
三部 達・ひとみ
布橋 隆男・みちる
安田 英司・朝弓

平成20年12月〜平成21年5月
挙式の方々

越中の食彩

山元醸造株式会社

山本和代子

地味噌と地醤油

皆様のご家庭の台所に欠かせない味噌・醤油。それはいわば空気のような存在で普段はその特徴に気付くことなどありません。しかし、県外に出たときにこんな経験をしたことはありませんか。味噌汁をすすつてなんとなく不満を覚え「やっぱりうちの家庭が作ってくれる味噌汁が一番」と思った。刺身を醤油につけ一口食べたとき、「なんて黒くて辛い醤油だ、こんなありか？」とむっとした。言葉に方言があるように、味にも地方独特の方言があります。耳に馴染んだ言葉を聞くとほっと心が和むように、馴染んだ味には人を安堵させる力があります。

私たちが地味噌は、米糀の歩合が高く香りが華やか、塩分が比較的高く、味があっさり淡泊なのが特徴。魚介の宝庫といわれる富山湾に面している私たちの地方では、魚の味噌汁をよく食します。地味噌は魚との相性が抜群。糀の香りが磯臭さを消し、塩味が魚の風味を引き締め、淡泊さが魚の旨みを引き立てます。

地醤油は味が甘いのが特徴で、不思議なことに海岸に近い地域ほど甘い醤油がより好まれます。新湊・氷見・水橋などの漁師町では全国でも屈指の極甘醤油が愛用されています。また、色は淡口と濃口のちよ

ど中間くらいですが、山手では色の薄い醤油が好まれ、海岸に近づくほど色の濃い醤油が好まれます。郷土料理の工へスの色を比べてみれば一目瞭然、砺波地方と射水地方では全く色の濃淡が違っています。

醤油も味噌と同様に魚との相性が良いのが特徴でしょう。脂が良くのった寒鱈の刺身に地元の良い醤油は格別の美味しさです。それから、地元のお寿司屋さんの中には甘い地醤油にさらに味噌や砂糖などを加えて煮立て、独特の味調合しておられる処があります。お寿司屋さんの常連客の心を掴んでいるのは新鮮なネタと寿司職人さんの腕だけではありません。醤油の味の役割も大きいのです。

今晚の食卓では、普段は脇役の味噌醤油の味をゆつくり観察してみてください。



高岡の味噌・醤油

神道

いろは

境内の石灯籠について教えて下さい。

神社に設けられる石灯籠は、単なる照明のためのものではなく、神の御加護をより一層強く願うため神前に灯明を点すことを目的に祈願者から奉献されたものです。

石灯籠は古代に大陸から伝わってきたものであり、本来、寺院の堂前に立てられて、ご本尊に献灯するためのものですが、日本においては平安時代以降、神仏習合の影響により、寺院のみならず神社の社頭にも取り入れられるようになってきました。

もともとは社殿の正面中央に一基立てられていたものが、後世には左右一対の形で多数立てられるようになりまし

た。このような意味を持つ石灯籠が、庭園にも設けられるようになったのは、安土桃山時代からです。茶の湯の発達とともに、茶庭の照明と添景を目的に、風雅な装飾調度として用いられるようになりました。このため、それまで八角・六角型で下部から上部に向かって、基礎（地輪・じわ）・竿・中台（請台・うけだい）・火袋（ひぶくろ）・笠・請花（うけはな・宝珠（ほうじゆ））といった形式を基本に作られていたものが、大きく変化して

新たな庭園用石灯籠が作られるようになっていきます。

例えば、背丈が低く、笠が大きく外方に広がった短い三本脚の雪見灯籠や、自然石を積み上げた素朴な形の山灯籠、茶人・古田織部（ふるたおりへ）の墓にあった石灯籠を模した織部灯籠などさまざまな庭園用の形を見ることができます。

さて、社寺に設けられる灯籠にも各時代による変遷や、地域性によるものなど各種の形があります。その中でも神社の灯籠として一般的な形といえるのが春日灯籠です。奈良の春日大社に立てられている石灯籠の形式のもので、背丈は高いのですが笠は大きくなく、笠の先端部分には蕨手（わらびて）があり、火袋は六角は四角のもので模様などが彫られています。

これに対して、寺院用といえるのは、宝珠を支える請花や、中台、基礎の部分が蓮の花をかたどっていたり、五輪塔の形を模したものなどです。しかし、寺院に春日灯籠が設けられる事例もありますので、必ずしも厳密に区分されているというわけではありません。



『ふるさと』

射水神社

⑫二上山の城『守山城』 (その1)

射水神社の御神体である二上山の名は、峰が二つあるというその形態から名付けられたものである。その二つの峰とは摂社日吉社が鎮座する東峰「奥の御前」(二七三メートル)と、守山城本丸跡で「袴腰」と呼ばれる西峰(二五九メートル)である。この「袴腰」は城山ともよばれ、元は先の尖った円錐形の山だったものを、築城のため山頂を人工的に削って名付けられたものである。

守山城の本丸は千疊敷の名があり東西一〇五メートル、南北三〇メートル内外の広さを持ち、その西端にわずかながら石塁の跡が残っている。また、二上山南西側の一角には、戦国時代に外敵の発見を目的として造られた砦や、山中には城の石垣の石を運び上げる輸送路である「殿様道」と呼ばれる道も発見されている。

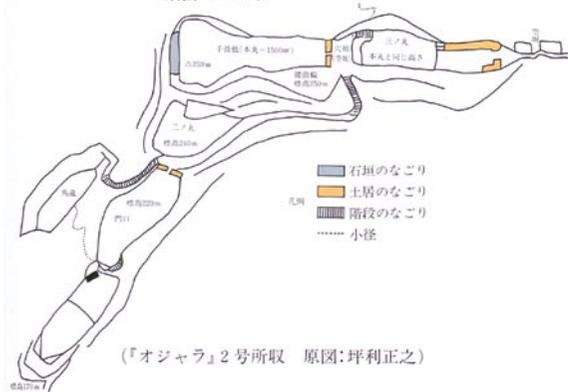
守山城は、二上城、海老坂城とも

呼ばれており、高岡市内を一望に見下ろす立地は、庄川・小矢部川の河川輸送、伏木・放生津の海上輸送を掌握する要所でもあった。越中・加賀・能登の丁度中心に位置し、山高く道険しく前方は小矢部川、後方は氷見の湖水にはさまれた國中随一の要害であった。築城時期ははっきりしないが、南北朝の初期にはすでに砦として所在したものと考えられるが、越中三大山城(守山城、松倉城、増山城)の一つに数えられるほどの本格的な整備は、斯波氏が守護となり、ここを守護所としてからのことであろう。「南北朝の末期、建徳二年(一三七二)に南党の桃井直常が石動山天平寺の衆徒としめし合わせて、越中守護斯波義将の本城守山城を攻め落とした。」というのが史上の初見である。その後、畠山基国が越中守護となるに及んで、守護代神保氏の居城となった。後に神保氏張、佐々成政が在城したが、天正十三年(一五八五)、氏張は前田軍に追われて、富山城の成政に合し、運命を

共にした。同年八月、守山城に入った前田利家は、二上山中にあつた臨濟国泰寺の方丈を城主の居館として徴用し、残る小堂・山林の保護を約束しているが、城内の建物の種別やその配置は明確でない。

本年、高岡市は開町四百年の記念すべき年を迎えるが、その開町の祖、加賀藩二代藩主前田利長公は天正十三年より、慶長二年(一五九七)に富山城に移るまでの約十三年間、守山城に居城した。(続く)

現状で見る守山城(二上城)の構造
—東西 500m余—



編集後記

『射水』十二号をお届けいたします。

さて、本年秋口に当社参集殿を利用して、富山県考古学協会様の六十周年記念大会が行われる予定であります。歴史愛好家の皆様の手弁当により守り伝えられ、会そのものが歴史を刻むに至った経緯を思うとき、改めて畏敬の念を覚えるところでございます。

歴史学(文書)と考古学(遺物)は、垣根の低い学問同士だと思えますし、近年では例えば『日本書紀』という書物が、あたかも王権の正当性を伝えるべく夢物語を創造し、学問程度が低い人々に、それこそマインドコントロールするために書かれた本であるかの理解がされている現状もありますが、振り返って考古学の業績をながめると、『日本書紀』の記述が考古学の業績と符合している部分も多々見受けられる所です。

何が正しく何が間違いか?限られた史料や遺物から断定的にその判断を下すのは、厳に慎まなければならぬ事であると同時に、現代に生きる我々は、過去をすべて知り尽くす突如飛来したエイリアンではない。先人の声なき声に謙虚に耳をそばだてる存在であるべきだと考えます。

発行 射水神社
発行所 〒九三三-〇〇四 高岡市古城一
TEL (〇七六六) 二二一三三〇四
FAX (〇七六六) 二二一三七一五
印刷所 キクラ印刷株式会社



悠久の歴史にいだかれ
とこしえ
永久の愛をお誓いします。



参
集
殿
通
信

三
献
の
儀



—うつくしの杜ブライダルフェアのご案内—

Utsukushi no mori Marriage story



平成21年3月挙式 岡本様ご披露宴

うつくしの杜 夏フェスタ

平成 21年7月12日(日)

10:00~17:00

- ・模擬挙式 11:00~、15:00~
- ・模擬披露宴 11:45~・ケーキ試食
- ・試食会 ・和装、洋装衣裳展示
- ・会場コーディネーター ・引出物展示

婚礼相談会

平成 21年7月18日(土)~20日(月)

8月2日(日)・9日(日)

10:00~17:00

- ・式場、披露宴会場見学
- ・相談会

和装試着チャレンジ(要予約)

平成 21年7月4日(土)

8月23日(日)

10:00~16:00 (5組限定)

うつくしの杜、結婚式場

射水神社

〒933-0044 高岡市古城1番1号(高岡古城公園内)

お問合せ (0766) 22-0808

URL ■ <http://www.imizujinja.or.jp>

Eメール ■ jinja-k@mbs.sphere.ne.jp